

# 春闘川柳紹介特集号



## 国労仙台

No. 2573  
2010年2月5日  
発行責任者 橋本 昭二  
編集責任者 武田 昌仙

大衆行動を組織しよう!

### 春闘事務局 よりの知らせ

#### 春闘川柳出揃う!

10春闘事務局会議では、国労仙台総行動での催しとして、第5回の春闘川柳大会を行うことを決定し、組合員一人一句を募集した結果、以下の川柳(組織拡大標語含む)を集約しました。組合員は3票の投票権を持ち、優秀と思われる作品に投票することができます。投票に際しての詳細は、各支部の10春闘事務局または分会の執行部にお尋ねください。



09年の表彰風景

- 1 大儲け 作ったものは 労働者 はき出せためこみ君
- 2 大学出の我が息子 妻と一緒にのパートです 詠み人知らず
- 3 究極(9億)至極(4億)ごまかして 本当にできるの マニフェスト ハトポツボマメクラオ
- 4 うそだらう リーディングカンパニー 水泥石 詠み人知らず
- 5 20パーセント減 先輩たちのなげきが 今我が身 なくくそおやじ
- 6 パートナー会社には 何も言えない JR 危険な関係
- 7 会社の体制 業務委託で 政権交代 ちくしょう
- 8 腹くくれ 春闘勝利の道険し 不況風負留名
- 9 暖冬が 上司セコクで 厳冬だ ケイタロウ
- 10 メンテ再構築? まずは上司の能力構築だ! 末端社員
- 11 2割減 これが我が家の2番底 退職目前
- 12 終礼後 電話鳴り止み さあ本番 詠み人知らず
- 13 外注化 教えた人が 次見習い 現場監督
- 14 エコ減税 我が家の家計も エコ飲みスト
- 15 年老いて 仕事は増えど 2割減! 観自在菩薩
- 16 ゴマをする 鉄道会社に ない作業 だんごや
- 17 風通し 言えば言つほど 意気消沈 職場暗太郎
- 18 蓮方さん ウチの管理者 仕分けして ガセコンプライアンス
- 19 ながつても 変わらぬ暮らし たたかつのみ かかし
- 20 エルダの 確保目的 うそつぱち 検査合理化反対
- 21 今年こそ 笑顔で結集 2・16! オレ流
- 22 怪我・故障 ルール守らぬ 社員の責任 水泥石
- 23 五十代 やる気はあるが 目が霞む 中年の星
- 24 仕事終え 心やすらぐ 赤ワイン ゆっくり眠り体
- 25 今年こそ 願いを込めた 一要求 ジブシー
- 26 平成の 採用社員 ベ・ア知らず ティーベア
- 27 政権交代 時を逃すな! 全面解決! 大丈夫? 民主党
- 28 検修の 合理化反対 安全第一 詠み人知らず
- 29 今年こそ JR不採用問題は 必ず解決願いつつ 解決太郎
- 30 働けど 我 暮らし楽にならず 孫の名は颯星
- 31 年の瀬の締めは やつぱりCS会議 詠み人知らず
- 32 国労が いなきや 安全守れない ベガバカ
- 33 雪がとけ 今年こそは 満額だ 傘地蔵
- 34 川柳の 餌食にしたい この上司 恨みつらみさん
- 35 水問題 発電止まり 建屋も冷えびえ 詠み人知らず
- 36 守虎意気 知らない世代 増大化 平成採用
- 37 PRC コンピューター増え 人減らされる 詠み人知らず
- 38 初夢は 大幅賃上げ 春闘で エルダ社員
- 39 「派遣切り」「非正規切り」 今春闘でメッタ切り 必殺仕事人
- 40 受験生 学費はどうする お父さん 神谷沢人
- 41 今日出張 明日研修 職場で一番忙しい新入社員 誰にもいえない若手社員の代弁者
- 42 ノーベル賞 もらってオバマ 1枚コイン
- 43 いいのがい? その仕事まで 外注化? まるわ
- 44 コンプラと 掛け声だけは 超一流 一割カット
- 45 省エネも お金が無ければ どう省もネエ! 省エネ太郎
- 46 技術継承...? 誰がそんな技術持つてんの? 爪を隠す能ある鷹
- 47 コンプライアンス 笑ってしまつ 水泥石 規則は守れと言つ管理者のもとで働く一社員
- 48 仕分け人 できるものなら やつてみな 火の車
- 49 闘いは 皆で団結 前進を 詠み人知らず
- 50 新採に 技術継承 評価ゼロ 国労組合員
- 51 米軍基地 民主党の態度に 沸点頭(フツテンマー) 基地撤去男
- 52 やつてない 私は無実だ コンなんとか かみ人28号
- 53 賃下げで 仕事は増えて 再雇用! もつすぐエルダ
- 54 笑顔から 全ての吉兆 門開く 組織拡大
- 55 コツコツと 日頃の運動 実を結ぶ 石の上にも3年
- 56 付き合いも 妻に仕分けされる今 必殺仕分け人

57	ため息の 出る数程の 金も無し 貧乏親父
58	40年 マジメに働き 賃金カット ゴーパー
59	いざ出陣 除雪 また敗戦 故障 除雪回数より故障・改良が多いビッグロモ
60	遼君の 年収に 一生でも届かず それでも生きている労働者
61	春闘に 身も心も 春とする 詠み人知らず
62	解決の 便りを早く 伝書鳩 まちぼつけ
63	「友愛」でも 生活苦だよ 「YOU、I」は！ ヒートテック
64	いつまでも 逃げ切れると思つな JR いちはし
65	地位と信念 計りにかけりやあ ヒューマン ユニオン 国労復帰！ Soraちゃん
66	管理職 指示が悪くて ミスばかり 黒猿山
67	俺 組合員と新採観入する 担当助役 カラス
68	汗だくで 作業するのは 組合員 万年虎男
69	新採は 助役の勧める 組合へ 上手くやれよ
70	腰痛の 痛みこらえて 一仕事 志(こころざし) 三兄弟
71	トラの子も 悲鳴を上げる 給料日 詠み人知らず
72	国労より 脱退弱者 今いばる 星一鉄
73	越すに越されぬ 院内峠 苦節24年の配転者
74	チョンガーは 35歳で 寮出され コキブリシルビア
75	低賃金 宝くじで 1ヶ月だけの大金持ち 詠み人知らず
76	今年こそ 報告したいな 新規加入 ヤス

### 活動家交流集会講演から

国労仙台2572号において、「別掲」として、本部鈴木中執の講演の一部を掲載する。鈴木中執は、不採用問題の現状や情勢、10春闘についても詳細に報告したが割愛し、職場報告と組織拡大、青年部の状況について掲載する。

### 国労本部 鈴木中央執行委員

#### 職場の実態から

職場の現実として、「この不況では賃上げは期待できない」として、多くの職場では諦めとシラケが先行し、「超勤・休日出勤で稼いだ方が手取り早い」「試験で合格し昇進したい」と、賃金を上げたい思いは同じであったも、結果として春闘に結集しきれないという悩みを多く聞く。自分は昨年専従だが、元職場である貨物・大宮車両所でも、JR東日本会社「大宮総合車両センター」とJR貨物「大宮車両所」は、賃金の違いが歴然と見え、一時金の時期には、「目に見える格差」に国内でさえ共に闘いづらいつらいつら気分・分断されている状況も率直にあった。その中で「何をもちて共に春闘や賃上げを闘うのか」と考えさせ

77	もつだめだ 2割カットで 餓死まじか カットマン
78	語らつて つくろつ仲間を あすのため ゲバゲバ
79	運動不足 ジムに通えず 万歩計 もるりん
80	春闘で 労働条件 生活向上 詠み人知らず
81	外注化 春の嵐だ 台風だ 安全軽視
82	新採なし そんな私は まだ新人 ブラックオバマ
83	不景気の 嵐が吹き込む我がサイフ 飛はぬ手立ては 大幅賃上げ
84	日々のり弁 グレードアップは 北国の水飲み百姓 いつの事やら 賃上望

られた。青年部時代の事であるが、一ヶ月間の手帳付けの取り組みを行った。日々の支出を集計し、具体的に「何を我慢させられているのか」を明らかにし、闘う根拠とする取り組みであった。

これを基にした議論の中で、東日本の社員でも、決して今の賃金には満足はしていないし、どこかで我慢をさせられている実態が見え始めてきた。今の貨物で言えば、東日本会社並に賃金が支払われたら、「春闘を闘わない」「賃上げ要求はしない」といえば決してそうではない。単に比較をするのではなく、「自分自身が人間として安心して生き続けるためにいくら賃金が必要なのか」を考えさせられた。自分自身の職場から闘う以外に展望は見えてこないし、「貨物の労働条件を善くするには、自分たちの奮闘を抜きには改善できない」「貨物会社に譲歩をさせる力を自分たちの職場から作ること」が大切だと考えられるようになった。

上部機関の取り組みも精一杯やってきたが、それだけでなく、分会では現場長への申し入れ行動を続けている。分会は、毎年春闘期には「労働条件改善署名」を取り組み、他労組組合員にも積極的に声をかけ現場の過半数を超える集約に。

昨年は、「JRコーポレートカード」の廃止問題について、継続を求める署名では、現場社員の殆どを集約した。

また分会では、「大宮車両所」で出来る職場改善要求」を継続してきた。所長の判断で可能な要求に絞り、意見交換を行ない、「塗装設備や粉塵等の改善」から「トイレの便座」「洗濯用石鹸の支給」「軍手の増配」「作業着の手配」まで、改善を図ってきた。労働条件改善の取組みのアピールにもなっており、賃上げの取組み同様、今後も頑張りた。

#### 組織拡大について

貨物会社では、和解以降は5名の仲間が加入。自分の分会では一昨年12月、A君が加入の決意を。彼は高専卒の「幹部候補生」という形での配属であった。配属先は私のいた「台車班」であり、非常に汚れる職種であるが、新規採用者は被服の貸与が2着のみ。新

採が配属される度に管理者に話をしていたが、改善されなかった。しかしA君の実態を訴え、管理者の裁量であるが支社管内の他職場から手配してもらつたことなどを通じて繋がりが強まってきた。

加入の大きなきっかけは、貨物会社との紛争事件の一括和解で、「国労に入っても差別しない」という事を貨物会社が確認した事で、加入の意思が付けられた。現在は執行委員として分会で頑張っており、分会も活性化している。

この間、多くの職場で「繋がりは出来ている」と報告されているが、一方で呼び掛けたときに「断られたらどうしよう」「関係が壊れるのでは」という不安の声が聞かれる。克服しなくてはならないが、一人だけの力では到底出来ないもの。分会、周りの仲間と議論しなければ克服出来ないと考ええる。

最近加入してきている青年労働者から言われることは、「守ってもらつたために加入したのではない。一緒に闘うために決意した」ということである。国労の闘いに組織するということとは、「日貨労や東労組から若い人を救うのだ」ということに確信を持つことが特に必要であると感じている。

#### 青年部の現状

ここ最近、組織拡大はありながらも、経年と共に彼らも青年部を卒業していく。青年部役員を担う仲間からは「自分は卒業するが、後輩達に何を残すべきなのか」「今後の青年部組織の運動の継承や強化」など、今後を心配する声が出されている。青年対策委員会もそうだが、機関・組織としてしっかりとフォロワー出来る体制作りが重要な課題。機関として青年部組織と関わり、その独自性を奪つことなく、意識的に「何をしたいのか」についてよく耳を傾けることが必要である。いずれ、20年経てば現行の青年部員だけになることは事実。

組織と組織力がある今、国労加入に結びつけるために、積極的に青年部と話をし、「何を感しているのか、どういつ所に不満があるのか？」を常に意識しながら関わる大切である。